

YA21421

年度	配当	区分	科目名	担当教員	回数	単位
2021	前期	発展	ファイナンス論	島義夫	15	2

授業の目的

プロの会計士・税理士や企業財務担当者にとって企業経営を理解する上で必須の知識とスキルである企業価値を基本とした「コーポレート・ファイナンス」の主要内容を海外 MBA と同一レベルで学び応用できるようにする。まず、DCF を学びそれを利用した金融商品評価を行う。次に、フリーキャッシュフローを定義したうえで企業の設備投資と企業価値評価をケーススタディで行う。さらに、ファイナンス理論に基づき資本コストを推定し、企業価値を基に企業経営の直面する財務・経営上の課題へのソリューションを学ぶ。

授業の到達目標

DCF による資産評価手法、企業価値・株式価値、資本コストなどファイナンス理論と企業財務管理の基本を理解し、それらを現実世界の企業に適用して、企業が直面する経営課題へのソリューションを考えることができるようになるのが到達目標である。

履修条件

簿記・会計は必須。財務諸表分析を一通り知っていることが望ましい。

授業計画

回	授業内容	日程
1	授業概要と計画、この授業で何が学べるかの説明。ファイナンス学習の全体像とコーポレート・ファイナンスの位置づけ、内外の経済・金融情勢などについて説明する。教科書第 1 章とその補論を予習しておくこと。	4月3日(土) ④15:10-16:40
2	現在価値と資産評価手法としての DCF をマスターする。DCF の債券、不動産、株式への応用を行い、定率成長モデル式を使いこなせるようにする。教科書第 2 章前半の内容である。	4月10日(土) ④15:10-16:40
3	引き続き、DCF による資産評価のケーススタディを行い、次に、企業の投資プロジェクト評価を NPV により行う。また、IRR や投資回収期間など代替的な手段との比較も行う。教科書第 2 章の後半部分の内容である。	4月17日(土) ④15:10-16:40
4	企業の投資プロジェクトは企業価値成長の源泉である。また、企業は投資プロジェクトの塊とも言える。それを学んだ後、両者の推定に必要なフリーキャッシュフロー FCF と、それを割り引く資本コストの定義と性格を明らかにする。教科書第 3 章前半。	4月24日(土) ④15:10-16:40
5	企業価値評価に必要な営業フリーキャッシュフローを具体的な事例で計算、推定してみる。また、負債コストと株式コストが与えられた状況で企業の加重平均資本コスト WACC を推定する。教科書第 3 章中盤から後半にかけての内容である。	5月8日(土) ④15:10-16:40
6	具体的な事例で、企業の FCF と WACC から企業価値評価を実践する。それだけでなく、その結果から、株式価値が推定されて企業経営の成否が判断され、また、株式の投資価値が評価されるなど重要なインプリケーションが引き出されることを学ぶ。教科書第 3 章最後。	5月15日(土) ④15:10-16:40
7	これまでの DCF を利用した資産評価と企業価値評価に関するまとめを行い、中間試験を実施する。試験終了後に解説を行う。	5月22日(土) ④15:10-16:40
8	資産評価モデルの Capital Asset Pricing Model とベータについて学び、それを利用して企業の株式資本コスト推定を行う。特に同モデルを構成する個々の変数について具体的にどのような数値が使えるのかについて学ぶ。教科書の第 4 章前半の内容である。	5月29日(土) ④15:10-16:40
9	モダンポートフォリオ理論 MPT。投資におけるリスクとリターンを定義を行い、ポートフォリオによる分散投資のリスク軽減効果、そして、リスク回避的な投資家にとっての最適ポートフォリオなどについて学ぶ。また、信用リスクの数量化と負債コストについても学ぶ。教科書第 4 章後半の内容である。	6月5日(土) ④15:10-16:40
10	企業の財務政策。企業にとっての負債・デットの意味、財務レバレッジ効果と財務リスク、負債と企業価値との関係について、モジリアーニ・ミラーによる MM 命題を中心に学ぶ。教科書第 5 章前半。	6月12日(土) ④15:10-16:40
11	負債の節税効果と企業がディストレスト状態に陥った時の「倒産コスト」を考慮することで MM 命題を税金のある世界で修正する。それにより、現実的な世界における企業価値とデットの関係、企業の財務政策について深く理解する。教科書の第 5 章後半の内容である。	6月19日(土) ④15:10-16:40

12	デリバティブの基本、特にオプションの基本を学ぶ。株式を原資産とする金融商品としての先物やオプションについて、その商品内容と特性、実際の取引、損益計算などを学ぶ。特に、その満期日におけるペイオフ図を使って特性を理解する。教科書第6章前半。	6月26日(土) ④15:10-16:40
13	株価指数オプションを例に、そのオプション価格・プレミアムがどのような要因により影響を受けて決まるかについて学ぶ。オプション価値を2項モデルの枠組みで推定する。またリアルオプションにも言及する。教科書第6章後半と補論の内容である。	7月3日(土) ④15:10-16:40
14	企業のM&Aの基本を最新のニュースや具体的な事例などを通じて学ぶ。M&Aの様々な態様、なぜ企業はM&Aを行うのか、また、どのようにそれを実施するのかなど第7章の前半部分である。	7月10日(土) ④15:10-16:40
15	企業のM&Aにおける主要な論点やそこから派生する様々な経営課題、企業経営の在り方、コーポレートガバナンスなどに関する主要な論点について学ぶ。その後、これまでのまとめと質疑応答を行う。	7月17日(土) ④15:10-16:40
試験	期末試験	7月24日(土) ④15:10-16:40

使用教科書／評価方法等

教科書	『入門コーポレート・ファイナンス』 島義夫 著 日本評論社 2010年
参考書	必要に応じて適宜指示する。
評価方法	期末試験を実施する。試験終了後に解説を行う。 中間試験で成績の45%、期末試験で45%、残り10%が出席と授業への参加。
その他	税理士・会計士にも顧客に対する財務アドバイス・コンサルティングなどに関する能力が求められている。また、顧客中小企業の事業譲渡・売却のニーズが高止まりしている。それらニーズに対応するには企業価値評価を中心としたコーポレートファイナンスの知見が不可欠である。それをこの授業で学ぶことができる。難易度は高いが得られるものも大きい。